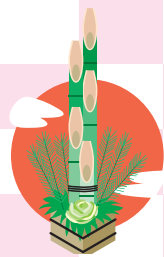


年頭のごあいさつ



錦江町長
野元 良一

明けましておめでとーうございます。皆様には、ご家族お揃いで、新年を迎えられたことと思います。心からお祝い申し上げます。

錦江町が誕生し9ヶ月余り経過いたしました。その間順調に推移していることは、町民の皆様の温かい御理解と御協力の賜物だと厚く感謝申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、わが国の社会経済情勢は、長引く景気低迷から脱却したとは言われるものの、少子高齢化の進展、さらには地球規模の環境問題など深刻な状況を迎えているとともに、国民の価値観も、物の豊かさから、心の豊かさや安らぎ、ゆとりなどを求める方向に移行してきています。

このような時代の大きな転換期の中で、地方自治を取り巻く環境も大きく変化してきており、平成12年4月1日に「地方分権一括法」が施行されたことを期に、地方は、地域の住民が自分たちで決定し(自己決定)その責任も自分たちが負う(自己責任)という地方自治の姿を確立して

いくことが強く求められています。加えて、地方交付税や、補助金の削減などをはじめとする地方財政制度の見直しにより、自治体の歳入は、大幅に減少してきていることから、これまで国や県に依存してきた体制を見直し、今後共生しながらその中で個性を見出し、自立した町づくりを進めていくことが求められています。

よって、地域の特性や資源を生かして、厳しい時代に対応する自立した町づくりを進めるため、錦江町は「あふれる自然、こころ豊かな町」を新町建設計画の理念としています。一方昨年は、台風14号の襲来により、昭和13年以来の大災害が発生いたしました。

被害を受けられました皆様に関心からお見舞い申し上げますとともに一日も早い復旧を御祈念申し上げます。このような厳しい情勢ではありませんが、我町は「農林水産商工業の繁栄なくして町の活性化なし」といわれているように、今後さらに経営の維持拡大につながるような基盤整備に取り組んでまいりたい所存です。

このような中昨年は、お茶の販売額が十一億七千八百万円、葉たばこについては、2年連続の不作であったにもかかわらず九億二千三百万円の販売額に達することが出来まして大変喜んでいるところです。

今、食に対するニーズは安心、安

全が第一となっております。今後は、安心安全の付加価値をどれだけ高められるかが重要なポイントだと思えます。

よって、錦江町の生産物に、安心、安全の付加価値を高めるためのシステムを構築し日本一安心安全なものづくりをめざしていきたいと考えています。

そして、日本一安心安全なものづくりが出来るようになりましたら、今度は、日本一高く販売できるようにシステムを考えたいと思います。日本一販売できるようにしましたら、その中から基金を積んで頂き高齢者が楽しい余生が送れるような錦江町にしたいと考えています。

そのための情報発信の場として神奈川県沿いに物産館を建設し、ここから錦江町の情報を発信し、全国に誇れる農業の町を目指して、町民一体となり英知を結集してまいりたい所存であります。

県営土地改良総合整備事業として取り組んでまいりました大根占水田のパイプライン導入事業につきましては、平成18年度も引き続き実施してまいります。林業につきましては、引き続き公益的、多目的機能を高める除間伐推進と特用林産物の振興に努め、漁業につきましては、作り育てる漁業を主体に引き続き漁礁設置事業を導入しその効果に期待していると

商工業につきましては、大型店の進出に加え二十四時間営業という商法により地元商店は沈滞化の状況となっております。

よって、営林署跡地を商業地として利用し、活性化を図ることのできる許可を頂きましたので、今年からは年始早々に、工事着手の計画となっております。

少子高齢化の進展する中、高齢化対策として昨年10月完成しました田代保健福祉センター利用による健康増進、サンドーム利用による健康増進、介護保険制度、デイサービス宅配給食等の充実、青山荘、みなみかぜ等の民間活力の充実に図り少子化対策としても子育て支援、学童保育を推進してまいります。

今後地方分権が進行していく中で町民の生活と福祉の向上を図っていくためには、町民の皆様の意見を出るだけ反映させながら、行政議会が一体となり、活性化に努めていくことが必要であると思えます。

新年度におきましても、さらに厳しい財政運営ですが、職員一体となり健全財政に努力しつつ、町民の生活と福祉の向上に努めてまいります。また、議会をはじめ町民の皆様方のさらなる御支援御協力をお願い申し上げますとともに、皆様方の御多幸を祈念申し上げ新年のあいさついたします。